

ＪＡ自己改革推進レポート（ＪＡ鳥取いなば）７月号

（１）農協観光ツアーでらっきょう収穫と漬け方体験

農協観光は６月２日、「ふるさと体験交流ツアー」を鳥取市福部町で開いた。ツアー客はラッキョウの収穫や漬け方講習を体験し、鳥取の旬を満喫した。ツアーは体験型交流企画として人気で、大阪などから４１人が参加した。



（２）女性会員が介護施設でちまき作り交流

ＪＡ鳥取いなば女性会青谷支部は６月１１日、介護福祉施設「グループホームわかばの家青谷」を訪問し、施設利用者たちとちまき作りを楽しんだ。会員や利用者、施設職員など約２０人が団子をこねたり笹で包んだりした。地域貢献活動の一環で施設利用者との交流に取り組み、ちまき作りは恒例行事となっている。



（３）女性大学ルシール 第７期開講

ＪＡ鳥取いなばは６月１４日、女性大学「ルシール」第７期生の開講式と第１回講座をＪＡ本店で開き、２１人が入校した。講座では、「家の光」の付録『なぜ？ どうして？ 図解ＪＡ』を使い、協同組合の成り立ちやＪＡ事業の概要、地域との関わりについて理解を深めたほか、ミニモップ作りや茶話会を行い、受講生同士が交流した。



（４）星空舞栽培研修会

ＪＡ鳥取いなばは６月２０日、県育成の新品種米「星空舞」の栽培研修会をＪＡ本店で開いた。営農指導員を対象に、中干しや穂肥など田植え後の管理について栽培技術対策を研修した。星空舞のブランド化に向けて、県下で統一された栽培指を徹底し、安定した品質を目指す。



(5) 白ネギ全体研修

J A鳥取いなばは6月26日と27日、白ネギ全体研修会をJ A本店で開いた。2日間で生産者約100人が参加。白ネギの品質向上、収量増加を目的に、排水対策や病害防除について学んだ。

